

公表:令和 4 年 3 月 25 日

事業所名 こどもデイサービス おひさまのくに

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	100%			安心して活動できるようスペースを確保しています。	動線や見守る際の死角が少なくなるように、活動スペースの確保を工夫していきます。
	②	職員の配置数は適切であるか	100%				児童一人にかけられる人員はパートを合わせて充足していると考えています。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	91%	9%			床については段差解消の配慮をしているが、手すりなどの設置はなく、誰にでも使いやすい環境を検討していきます。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	91%	9%		前年の自己評価から意向を読み取り、事業改善につなげてきた。	次年度より具体的な目標数値の設定と、個々のスタッフが振り返ることができる体制を目指します。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	100%				アンケートの結果を踏まえて、今後改善すべき点などを会議にて議論していきます。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	91%			無回答9%	ホームページに記載しているが、その他にも公開方法を検討していきます。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	73%		27%		第三者評価は受けておりません。今後、実施した際には速やかにお知らせします。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	100%				外部講師を招いたり、オンラインでの学びの機会を設定しています。研修計画も立てていく予定です。
	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	73%	18%			中学校に進学するお子さんも増えてくと予想しているため、時期に応じた再アセスメントと支援計画を作成していきたいと思っております。
適切な支援の提供	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	73%	18%			施設で使用している独自のアセスメントツールがあります。今後、モデルを参考により子どもたちを理解できるよう工夫していきます。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	100%				作成担当者を設定しているが、立案は全体での議論をしています。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	100%				設定活動を日毎に設けています。また、地域交流、地域参加する機会も増やしています。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	100%				休業日には外出行事などを取り入れ、平日と異なる趣向の活動を検討しています。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	100%				小集団でのコミュニケーションや適応を意識した計画を立てるようにしています。計画立案における学びの機会も増やしていきます。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	100%				朝のミーティングで役割の確認をしています。今後はその時間の効率化と意識の統一を図る検討していきます。

	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	55%	18%	27%		支援記録の記載などとともに、職員間で情報共有している。また、周知が必要なエピソードの場合は、翌日の朝のミーティングもその機会としてつかっている
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	100%				記録のポイントを共有しています。業務効率を高めるために、IT導入の検討をしています。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	100%				6ヶ月に一度以上は見直しをしています。子どもたちを取り巻く環境の変化等、モニタリングを必要とする時期や機会をある程度、決めていきたいと思っています。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ、支援を行っているか	91%	9%			基本的な支援の質の向上を目指したうえで、複数の組み合わせや自事業所の特色を打ち出していきます。
関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	82%	18%			複数利用している児童など、相談員や他事業所との連携機会を増やしていきたいと考えています。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○ 100%				できる限り送迎時などは情報交換をしています。形式的な情報共有の機会も増やしているよう、取り組みを検討しています。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	64%	9%	18%	無回答9%(対象児がない)	医療行為を必要とする児童はいませんが、知識を広げる機会を作っていきます。てんかんやアレルギーなど医師からの指示を受けられるものについては連絡調整を検討しています。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	82%	18%			児童発達支援から小学校に行く児童については、ある程度の情報共有はできているが、新規で受け入れの際の児童の情報については連携強化やパイプ作りが必要と考えています。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	64%	9%	27%		中学、高校と自立に向けて支える支援体制の構築を目指しています。今後、サービス移行がスムーズに行くように制度や他施設の理解を深められる研修を設定していきます。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	91%		9%		専門的な意見や助言を積極的に受けられるよう、より連携していけるように努めます。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	46%	18%	36%		感染対策もあり、地域や児童館との交流機会は満足に設けられていません。新年度に向けて企画の検討をしています。
	㉗	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	55%	18%	9%	無回答9%	協議会などの地域連携に関する参加機会はまだまだ少ないと感じています。
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	100%				連絡帳や送迎時に伝達したり、必要に応じて児童と保護者を交えた面談機会等を設定して、共通理解に努めています。
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	46%	45%	9%		ペアレント・トレーニングについては、次年度以降に実施計画を立て、具体的な検討をしていきます。

保護者への説明責任等	③⑩	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	100%				契約時をはじめ、実費がかかる際には都度同意を得ています。支援内容についても、事前説明のほかにも必要時にご説明するようにしています。
	③⑪	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	100%				家庭環境や保護者の方の状況に応じて、気軽にご相談いただける体制を目指しています。対面や電話だけでなく、SNSやメールなども使用できるようにしています。
	③⑫	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	45%	10%	45%		次年度以降、感染対策をしながら保護者会の開催を検討していきます。保護者同士の連携は負担にならない形を考えていきます。
	③⑬	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	100%				日々のやりとりの中で気軽にお伝えしていただける関係性を目指しております。ご意見やご指摘いただいた事項については、チームで検討し前向きに改善していきます。
	③⑭	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	100%				行事の際には案内を出すようにしており、活動の様子はHPやSNSを利用して報告できるようにしています。今後、更新の頻度を高めていきます。
	③⑮	個人情報に十分注意しているか	100%				利用範囲を明確にして運営に当たっています。写真などの掲載についても、一定の配慮をしています。
	③⑯	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	100%				児童には視覚化支援を意識して、言葉だけでなく様々な伝達方法を用いて、コミュニケーションの円滑化を図っています。保護者とのやりとりに関しても、より便利なツールの選定などを検討していきます。
非常時等の対応	③⑰	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	9%	18%	73%		感染対策もあり、積極的に事業所に招くことはできていません。ただし、地域の卓球教室や施設を利用するという視点で社会参加の機会の確保に努めています。
	③⑱	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	91%	9%			マニュアルはありますが、移りゆく社会情勢や必要な配慮に応じて、定期的に見直ししていくこととします。
	③⑲	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	100%				定期的に避難訓練を実施し、避難行動を定着化できるように計画しています。形骸化しないように目的を明確にしています。
	④①	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	100%				何気ないことが児童の権利を脅かしていないかなど、支援会議や研修において振り返りの機会を持っています。
	④②	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	100%				切迫性、非代替性、一時性について理解を得られるように、支援計画なども用いて説明をしています。基本的には身体拘束によらない支援のあり方を模索しています。
	④③	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	82%	18%			保護者の予測に基づくアレルギー申告については、できる限り受診のうえ、医師からの指示をもらうように協力をお願いしています。また、同意書を作成して運用をはじめました。
	④④	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	100%				日々の支援での振り返りを行い、個別記録や支援会議録にて共有を図っています。

◎ この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。